

事業実施主体名:株式会社秩父まちづくり

令和6年5月29日 作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
埼玉県 秩父市	令和2年	農泊推進対策	市町村・中核法人実施型

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

令和2年度については、施設整備の遅れが大きな課題となっていた。令和3年度と比較し、令和4年度は右肩上がりの実績であり、売上、宿泊者数など実績についてはC評価ではあるが、成果としては一定の成長がうかがえる。施設整備事業は、認知・周知までに時間を要することからコロナ禍を経て、実績が回復していることは一定の評価をしたい。宿泊者など利用者及び関係者に対しての情報発信を工夫することにより、秩父エリアの活性化、歴史や文化を取り入れた農泊推進に取組むことにより、計画に位置付けられた取組が確実に実施されるように工夫されたい。

2. 低調と評価された要因

- 令和3年に、ホテルをオープンする予定だったが、新型コロナウイルスの影響により、着工準備、工期合わせて不測の遅れが生じた。
- 令和4年8月に築100年程度の歴史を持つ古民家の風合を残しつつ、秩父の歴史が体感できる仕様したレストランでは、地元農家から仕入れた新鮮な農産物を用いた質の高い料理を提供する宿泊施設を開業できた。
- 工期の遅れ、新型コロナウイルスの影響により、開業準備(オペレーション運営、人材確保等)が不十分な開業となった。また当初計画の資金繰りも大幅に悪化した。
- 目標達成状況は芳しくない。そのため認知拡大を目指してプロモーション等の販促企画を再検討している。

3. 目標達成に向けた方策

- 専門家を招聘して、オペレーション、サービス、提供料理等を見直し、宿泊者満足度は地域内でもトップレベルの評価をいただいている。
- 地元酒蔵と連携した宿泊プランや、鉄道事業者連携、地元ガイドや障害者の活用など、当ホテルを中心に秩父エリアの活性化に取り組んでいる。
- SNS広告の活用、OTAの活用、魅力あるプランの造成、柔軟な価格調整を行って、稼働率は大幅に向上している(25%→80%)。
- 水光熱費、人件費の向上、販売促進費の大幅増により、資金繰りは厳しい。
- 客室単価を上げる、事業運営の見直しなど、コスト削減などの経営努力に努めている。
- 8室のみで営業しており売上のトップラインを上げることが難しいため、地域内にある他の古民家も活用した設備投資を行い、客室を増やしたい。

4. 改善状況

- 引き続き、顧客目線のサービスや季節に合わせた地元食材を使用した夕食の提供、いちご狩り体験、地元ガイドとの街歩きプランなど顧客満足度(口コミ点数等)は高評価をいただいている。
- SNS広告やOTAサイト広告、魅力あるプランの造成、インバウンド誘客の実施など新規顧客の獲得を引き続き実施している。
- 稼働率(令和4年度)21.6%→(令和5年度)52.8%まで向上
- 水光熱費、人件費、販売促進費が高く、令和5年度も赤字経営となったが、赤字額は減少している。(令和6年度は運転資金の借入を予定)
- 客室単価を上げる、事業運営の見直しなど、コスト削減などの経営努力に努めている。
- 補助金等の活用で、高付加価値な宿泊施設のプロモーション等を実施したい。
- 8室のみで営業しており売上のトップラインを上げることが難しいため、地域内にある他の古民家も活用した設備投資を行い、客室を増やしたい。

事業実施主体名: 大子町森林セラピー協議会

令和6年5月29日 作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
茨城県 大子町	令和3年	農泊推進対策	農泊推進事業

(注) ※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

森林セラピーについてニーズはあり、体験メニューについて検討は進められているが、活動体制の強化及び森林セラピーの魅力発信が課題である。活動の拠点や責任の所在が不明確と見受けられるため、抜本的な見直しが必要である。まずは専属の方を一人置くことが望ましいが、人材育成を含め、どのようにフォローアップしていくか検討していく必要がある。また、更なる魅力発信に向け、森林セラピーという体験コンテンツへの確固たるコンセンサスを再確認することが重要である。森林セラピーの魅力発信に結び付くよう、森林組合を体制の中に組み込むことも一案である。

2. 低調と評価された要因

・令和4年度までは新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、事業実施に関して慎重にならざるを得なかった。また、観光産業全体が低迷しており、人流が押さえられていたことも影響している。
・協議会のメンバーはそれぞれ主として別な職業に従事している等を理由とし、また財政的な問題としても専従者の設置は困難であることから、大子町役場職員が事務を行っている。もともと役場の働きかけで立ち上げた組織であり、数年後の自走を目標としていたが、現時点での自主運営は難しい。
・事務局の内部的な問題として、令和5年まで主として事業を行っていた者が年度途中で急きょ不在となり、事業実施やホームページの管理運営等が上手く引き継がれない状況が生じた。

3. 目標達成に向けた方策

・新型コロナウイルス感染症に関しては5類感染症に移行したことから、令和5年度から町民向けイベント等を再開する。また、大子町で実施する事業での活用により、町外に向けて発信する。
企業と提携することを目指していたが、ワーケーションで訪れる個人や観光客等をターゲットとし、まずは大子町で森林セラピーができるということの認知度を徐々に高めていく。また、町民向けの健康づくり等の事業等で、町民への理解醸成を図る。
・運営体制については、専従者の設置が難しいことから、令和5年度から大子町地域おこし協力隊にホームページの管理運営を委託した。地域おこし協力隊の事業とのコラボレーションを行いながら通常事業も並行して行う。
全てを協議会で実施するのではなく、協議会としては体験コンテンツの提供を行い、プロモーションや調整業務を担う組織等との連携を推進したいと考えており、当面は地域おこし協力隊が実施するが、今後の運営については適宜協議していく

4. 改善状況

・町民向けの森林セラピーウォーク等を再開し町民への理解醸成を図った。参加者からは好意的な意見を頂いた。
・大子町で実施したアウトドアのイベント時に森林セラピー協議会の体験メニューを体験してもらい、町外の観光等で訪れる層に向けて発信した。
・「古民家と森、集落を活かした観光まちづくり」をテーマにオンラインハイブリッドのイベントを開催し、森林セラピー等を活かしたまちづくりについてのディスカッションを行い、町内外から55名の参加があった。また、一部はワーケーションとして宿泊及び体験メニューを実際に体験した。
・運営体制については、令和5年度から大子町地域おこし協力隊にホームページの管理運営を委託し、プロモーションや調整業務を地域おこし協力隊が実施し、協議会としては体験コンテンツの提供を行った。

事業実施主体名:藤岡さくらやま農泊推進協議会

令和6年5月29日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
群馬県 藤岡市	令和3年	農泊推進対策	農泊推進事業

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

体験メニューについては、トレイルだけなら日帰りで充分と考えられてしまうので、訪問者の地域への滞留時間を延ばす工夫が必要である。それをしないと宿泊の動機付けにはならない。協議会に参加している旅館等にも問題がないか検証すべき。トレイルだけではなく、他の地域資源の結びつきを増やすことが大事である。訪問者の滞留時間を伸ばすため、複数のプログラムを組み合わせた旅行商品の開発、宿泊施設の改修や情報発信等を検討してはどうか。トレイル新コースの整備や、名物の桜山みかんと冬桜リンゴの物産販売や加工品の販売も、観光需要の取り込みの一助に繋げていき、農泊エリアの活性化をし、引き続き地域の関係者を巻き込みながら取組みを進めていくことにより、実績に繋げることが求められる。

2. 低調と評価された要因

- 1) 宿泊目標は318万円に対して、41万円だったのは、
①コロナウイルスの蔓延が、藤岡市内では令和5年9月まではやっていたため、団体旅行が増加しなかった
②宿泊を伴うトレイルイベントの設計をしたが、実際は分離した実績になっていた。
- 2) 林業所得が、608千円に対して、115千円
①コロナウイルスの蔓延が、藤岡市内では令和5年9月まではやっていたため、利用者が増加しなかった
②林業体験の設計をしたが、営業先がわからず販売不振に陥った。

3. 目標達成に向けた方策

- 1) 宿泊者の目標達成に向けて
・これまで秋に集中して誘客を計っていたために、四季に応じた農作物の収穫体験を、鬼石観光ホテルで宿泊プランとして募集する。
・さくらやまトレイルイベントにあわせた宿泊プラン(合宿タイプ及び早朝スタート、長距離)の造成を行い、トレイルの告知とともに、プランの提示を行う。
- 2) 林業所得の向上に向けて、森林体験プログラムの開発について、令和5年度は以下の内容に取り組む。
①さくらやまトレイル25kmコースの新設、②冬桜植樹体験、③林業体験山の仕組み講座、④森林BBQ、⑤みかん収穫&スイーツ作り体験などを開発する。
・更に、前橋工科大学と連携し、11/25ー26に、大学生を招いての上記体験を軸にしたモニターツアーを実施し、対象者の選定を行い、販売展開を行う。

4. 改善状況

- (1) 宿泊者の目標達成に向けた施策:合計251万円
秋、冬のトレイルイベントと掛け合わせた宿泊プランの販売実施。
初春にいちごの収穫体験とスイーツ作りのプランを開発販売。
令和6年度は、令和5年度の顧客像分析を元に、更なるトレイルイベントの前泊者を取り込むためのイベントを実施することでさらなる売上拡大をねらう。
①さくらやまトレイルイベントおよび宿泊パックを販売 102万
②トレイル25kmコースと組み合わせた合宿プランを販売 6名 9万
③林業サステナブル体験ツアー 参加者30名 60万
④藤岡名産いちご「やよいひめ」収穫三昧・林業体験ツアー 10名 80万
- (2) 林業所得の向上に向けて、森林体験プログラムの開発について:合計:173万円
トレイルコースの整備等で出た木材を、木工イベント及び体験用資材として販売を行った。
前橋工科大学や家具販売店に材木のみを販売を実施することができた。
日帰りプランの林業教室や森林リトリートツアーも販売することができた。
・材木等資材販売 63万
・林業教室売上げ 30万
・イベントブース資材用販売 50万
・森林リトリートツアー 30万

事業実施主体名：北軽井沢町を農と食で元気にする会

令和6年5月29日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
群馬県 長野原町	令和3年	農泊推進対策	農泊推進事業

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

過大な目標を立てており、実績が大きく届かなかったのではないかと。ペンションやホテルなどを加味すれば目標は達成できたであろうが、農泊としての定義付けやコンセプトの打ち出し方ができていなかったのではないかと。協議会は自拠点があるのか。実施体制が不足している。

「農泊」の視点において、戦略の中にプログラムと目標設定をする必要がある。また、地域の事業者、関係者を機能させ、巻き込みながら全体で取組みを進めていくことにより、実績に繋げることが求められる。地域での農泊に対する方向性の統一が、より一層の農泊推進につながることを期待される。

2. 低調と評価された要因

- ・農家の考えと私共の考えがうまく合わなかったことは事実、農家は短期(2日間)の短期の体験プログラムは負担が大きかったとの事。毎回入れ替わるたびに一から教えずにせず、繁忙期の受け入れに難色を示した。ただ、農業を知ってもらおうという点と、この地域に新たな人が来てくれる点については何とか協力したいという気持ちが強く、他の受け入れ方法が無いか考えてほしいとの声があった。
- ・宿泊先さんも協力的ではあるが、当会では料金設定に悩んでいた。
- ・旅行業の免許がないので積極的に募集ができなかったことも進まなかった原因にある。
- ・今までの参加者さんは主に大学生のグループで、体験後の評価は良かったのですが今後農家さんの要望と参加料金の事を考えると宿泊先のの事を考える必要がある。

地域の宿泊先に止まっていたのが地域のため関係性の為にも良いのですが、私共はここでの暮らし体験をしていただきたいという思いが強いのでそれを叶えられるプログラムが必要。

- ・食の開発については、この地ならではの特産品を使ったものを開発し、地域の飲食店や宿泊施設と共同で同じものを売りにしようと考えましたが、それぞれの事情で中々販売までに至らなかった。

3. 目標達成に向けた方策

- ・暮らし体験型農泊体験を構築するため、現在家を借りてリフォーム中。長期で宿泊しながら農業体験、北軽井沢での暮らし、食を思う存分味わっていただけるようなプログラムを考えている。家は春には完成予定。
- ・特産物を使った食の開発を進行中で、商工会に相談し食の専門家さんに相談。来年には実際に商品化に向けて専門家との試作品づくりを行う予定。
- ・商品化できたものの販売についての売り出し方は、今後の会議で決めていく。
- ・協議会と地域の方とのカフェも考えており、そちらも現在進行中。食品衛生責任者の講習も受講し準備を進めていく。

4. 改善状況

- ・暮らし体験の宿泊場所のリフォーム工事の完成が伸びたため(まだ改装中)7月ごろから使用できる予定
- ・夏には大学生を中心に村留学を計画中です。本格的な募集は来年の予定ですが、今年の夏からおためし企画を立てて稼働しようと考えている。

村留学は、大学生が北軽井沢で働きながらこの地の魅力を発見していく内容で、働き先は農業、酪農、建設業、林業等この地の各種産業で企画する。

- ・食の開発は進んでいまして、試作を重ねています。今は私共に関係する方に試食をしてもらい、様々な観点からの意見が、ほぼ形になってきましたので今後は細かい改善点を見直し売り出しに向けて進行中
- ・調理スペースの場所が決定しましたので、これから改修に入り保健所の許可を得ていく予定

事業実施主体名:三浦市地場産品商品拡大協議会

令和6年5月29日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
神奈川県 三浦市	令和3年	農泊推進対策	農泊推進事業

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

実施したものの成果として、売上高を正確にカウントすることは行っているのか。体験プログラム参加者数と飲食来店者数の差の乖離については不自然である。取組に対する成果の把握はできていない。

取組の成果を把握するための協議会内の仕組みを整えることが必要。数値の低いものに対しては、内容の磨き上げと集客PRのテコ入れが必要である。今後はプログラムの再構築、誘客に向けた情報発信・プロモーション、販売体制の確立、モニターツアーの実施、海外旅行者向けオンラインセミナーの実施、オンラインでの地産商品の販売を継続的に取組み、安定したサービスを提供できるようにすることで、地域事業者の連携強化をすすめることにより、実績につなげるように工夫されたい。

2. 低調と評価された要因

目標を立てる段階において、何をもってどの位の売り上げをあげるのか、どの施設でどのくらいの宿泊者数を見込むのか、といった見通しが甘かった。

また、売上高や宿泊者数を見込むための評価指標についても、例えば体験プログラムにおいて、どんなプログラムをいくらで何人に提供するのか、飲食店来店者数において、どの飲食店をイメージするのか、土産や物販においても、どのくらいの方に何をいくらで購入していただくのか、といった具体的な見通しを立てないまま、スタートさせてしまった。

加えて、新型コロナの影響により、体験参加者数を思うように伸ばせなかったという要因もあった。

3. 目標達成に向けた方策

本事業実施に当たっては、神奈川県三浦市内の11の団体で構成している「三浦市地場産品消費拡大協議会」が主体となっていたものの、元々、予算規模の小さい団体であったこと、収益事業を持たない団体であったことなどから、事業実施に係る資金調達に難航した。

また、三浦市地場産品消費拡大協議会を構成する11の団体の中で、旅行業の免許を取得している団体が不在であったことから、地域資源を活かした旅行商品の造成において、旅行会社に過度に依存する結果となった。

こうした課題を受けて、三浦市地場産品消費拡大協議会の中核メンバーである(一社)三浦市観光協会が運転資金の調達をするともに、地域限定旅行業の資格を取得することになった。

今後については、本事業実施の中核を担った(一社)三浦市観光協会と三浦市が連携し、三浦市が既に実施している教育旅行受け入れ事業の体験メニューに、農泊推進事業で実験した内容を盛り込むなど、当初の実施主体とは形を変えながらも、本事業で実証実験したメニューを活かし、三浦市が実施する既存事業の充実を図ってまいりたいと考えている。

また、(一社)三浦市観光協会は、本事業で実証実験した経験を活かし、着地型観光商品のラインナップを増やして外部の旅行会社などへ販売できるよう努めたいと考えている。

4. 改善状況

本事業実施の中核を担った(一社)三浦市観光協会と三浦市が連携し、三浦市が既に実施している教育旅行受け入れ事業の体験メニューに、農泊推進事業で実験した内容を盛り込むなど、当初の実施主体とは形を変えながらも、本事業で実証実験したメニューを活かし、三浦市が実施する既存事業の充実を図った。

結果として、本市に教育旅行で来た生徒数(体験のみも含む)は、10,584人となり、コロナ前の水準に戻ったと言える。

※平成29年…12,409人、平成30年…9,607人、令和元年…9,958人

事業実施主体名：富士のふもと山中湖村農泊推進協議会

令和6年5月29日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
山梨県 山中湖村	令和3年	農泊推進対策	農泊推進事業 人材活用事業

(注) ※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

山中湖観光協会が中核法人として組織を取りまとめており、地域の観光事業者、行政、農業者等と連携しながら、着実に商品開発等の取組みを実施していることは、高く評価できる。C評価としているものの、当年度の特に前半においては、新型コロナウイルスの影響で計画の後ろ倒しがあり、売上高の目標達成に至らなかったと考えられる。

これからの活動の土台は、本取組みを通して出来上がったと考えられる。新型コロナウイルスの5類移行による観光業の回復の波に乗りながら、引き続き地域の事業者等を巻き込みながら取組みを進め、実績に繋げることが求められる。

2. 低調と評価された要因

- ・新型コロナ感染症の影響により中止や延期などがあり思うように実施できなかった。
- ・計画段階で承諾を得ていた施設が急遽、事業実施ができなくなるといった事態が発生した。
- ・徐々に参加する人員が限られてしまった。
- ・資材調達が当初計画より思うように確保できず、実施時期がずれてしまった。

3. 目標達成に向けた方策

- ・新型コロナ感染症については、感染対策を行うことにより実施可能な体制を築いている。
- ・計画段階でより綿密に実施打合せをする
- ・承諾後も密に連絡を取り、変更があれば早急に検討する
- ・代替案を用意しておく(急遽変更を余儀なくされても大きな変更なく事業が実施できるよう準備しておく)
- ・広く参加を促す
- ・事業周知をより積極的に行う
- ・資材調達においても早い段階で確保し、スムーズに次段階へいけるよう手配しておく

4. 改善状況

- ・コロナ感染症対策をして、事業実施をした。
- ・資材調達の収穫時期を要検討し、資材確保のための打合わせを春頃から行った。
- ・実施打ち合わせを月に1～2回程度だった所を、1・2週間に1回実施することにより、連携を図りスムーズに事業実施をできるようにした。
- ・事業の周知をメールマガジン等で積極的に行い、村内事業者により宿泊客への周知もでき、参加人数の増加につながった。多い時には30名以上が集まった。
- ・コロナ感染症の影響により、室内で実施するものの集客が難しい部分もあった。

事業実施主体名:河口湖農泊推進協議会

令和6年5月29日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
山梨県 河口湖町	令和3年	農泊推進対策	農泊推進事業 人材活用事業

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

地域での連携における広がりという点で欠落しているのではないかな。目標については、過大な数字を設定しているのではないかな。民間事業者の実施体制にあった目標設定で整理すべきである。整理をした上で、規模を小さくしてもその中で光る事業の再発見があったのではないかな。コンテンツの磨き上げをしっかりとした上で、目標設定をするなどの考え方の見直しが必要である。今後は、地域の宿泊事業者、農家、飲食業者との連携、地域での活動において関係者間で協力していく基盤を形成することにより、実績につなげていくことが求められる。

2. 低調と評価された要因

・新型コロナの影響を受け、農業体験やワインを絡めた体験が行えず、ホテルの閑散期を充実させるアフタヌーンティー体験に事業変更となり、閑散期を利用した体験しか行えなかった。
・インバウンド食体験としての実績はなかったが、インバウンドウェディングの中では食体験を行っていたにも関わらず、ウェディングに関しては実績報告をしていなかった。
・新型コロナの影響から食体験(ワインと食のマリアージュ)を絡めた宿泊体験プランを積極的に販売できなかったが、新たな連携先も生まれ、ワインと食のマリアージュを取り入れた宿泊体験セットプランを販売した。河口湖農泊推進協議会としての連携先ではなかったため、実績報告はしていない。

3. 目標達成に向けた方策

・コロナ禍でも実績があったインバウンド食体験ウェディングは、今年度はさらに充実し、地域で実施できる会場も増え、宿泊体験セットのアメリカ人65名のインバウンドウェディングなども実現した。今後は、積極的に食体験ウェディングを農泊プランとして取り入れていきたい。
・現在、富士河口湖町は観光客で賑わっている。コロナの影響も少なくなり、ワインと食のマリアージュを取り入れた食体験ウェディングは日本人ウェディングにおいても好評である。富士北麓の自然の中で撮影を行い、富士河口湖町初のワイナリーのワインをソムリエが紹介し、地元の食材を楽しんで頂くプランは他にはない満足度の高い内容である。SNSなどでの広告宣伝をしっかり行い、集客に繋げている。
・開発した河口湖暮らしヴィクトリアサンドイッチケーキは、ウェディングギフトとしても人気があり、順調に販売を行っている。また、ふるさと納税サイトでも販売が始まっており、じっくりと育てていきたい商品である。
・河口湖暮らしギフトはウェディングギフトとして人気がある。地域の方が関わる手作りの商品が増えてきており、旅の駅河口湖暮らしスペースでも販売を行っている。

4. 改善状況

・インバウンド食体験ウェディングとしてプロモーションを行い、富士北麓の自然の中で、地域の食材とワインを絡めた料理を発信し、国際プランナーとの連携で本格的なインバウンドウェディングが実現した。
・富士山が見えるコテージデッキや河口湖畔でのパーティーを希望するカップルが多いため、雨対策がますます必要となってきた。昨年12月に河口湖農泊推進協議会事務局である株式会社和文化発信研究舎が山梨県古民家活用認定事業者となり、湖畔庭園前の古民家を改修中である。雨対策用のウェディング会場として、また体験型宿泊施設として利用できることを目標としている。
・令和5年度後半からは、オーパーツーリズムのため地域全体の状況が変わり、施設側の受け入れ状況も変わってきている。今後は空いているスペースをうまく利用し、施設の付加価値を上げていく必要がある。改修を行った河口湖カントリーコテージbanのデッキでの食体験ウェディング、空き家を活用した古民家(富士レークホテル岳麓翠苑やTHE LAKE 河口湖暮らし)での古民家ウェディングなども積極的に行っていきたい。
・2022年8月に富士河口湖町初のワイナリーとして7cwineryが開業したが、2024年7月にワインを味わって頂く日本初のワイナリーヴィラとして「7cvilla & winery」が開業する。葡萄栽培やワイン造りを身近に感じながら別荘のように寛げる客室、宿泊者専用ラウンジにてワインと食のペアリングを楽しむことができる他、ワイン造り体験なども楽しんで頂ける施設としても可能性が広がっていく。

事業実施主体名:銚子アグリツーリズム推進協議会

令和6年5月29日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
千葉県 銚子市	令和3年	農泊推進対策	高度化促進事業

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

取組みは計画通り取組まれている。新型コロナウイルスによる規制により、インバウンドの受入環境は厳しく、集客に結び付かなかったと考えられる。本事業での取組みを、インバウンドの本格的な回復に合わせても継続することで、実績に繋げていただきたい。

2. 低調と評価された要因

- ・新型コロナウイルスの収束や入国規制緩和が想定より1年後ろ倒しとなった。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大により思うような集客ができなかった。
- ・オンラインによる情報発信やPRを行ったが、実際に来日できる状況になかった。

3. 目標達成に向けた方策

- ・令和5年度は、銚子を訪れるインバウンドが確実に増加している。
- ・協議会の構成団体である犬吠埼ホテルの担当者が銚子市の観光協会へ移り、銚子市全体の観光事業を強力に推し進める体制が構築されている。
- ・洋上風力事業において、銚子市と三菱商事が地方創成に向け連携・協定を結び、インバウンドを含めた観光事業にとっても追い風となっている。
- ・これまでも取組がメディアで取り上げられることは多かったが、今年度は、NHKの国際放送NHK-WORLDでの放送(2月)が決定しており、その反響に期待している。
- ・行政や観光協会、企業と連携し、以前より銚子市と関係の深い台湾を中心としたインバウンドの誘客に向けたPRを行なっていく。
- ・インバウンドに特化した旅行会社やOTAを通じて販売するツアー商品を増やしていく。(連携先:WAmazing株式会社、株式会社羅針盤 等)
- ・インバウンドに対応した通訳兼観光ガイドについて、業務体制をより明確にするとともに、受入のスキルアップを図る。

4. 改善状況

- ・令和5年度:銚子を訪れるインバウンドが確実に増加している。
- 現状:銚子市全体としても増加傾向が継続しており、令和元年度の実績値を大幅に超えている。
- ・令和5年度:協議会の構成団体である犬吠埼ホテルの担当者が銚子市の観光協会へ移り、銚子市全体の観光事業を強力に推し進める体制が構築されている。
- 現状:結果として、特に台湾からの旅行者が増加しており、旅行会社からの問い合わせや視察が増加している。
- ・令和5年度:洋上風力事業において、銚子市と三菱商事が地方創成に向け連携・協定を結び、インバウンドを含めた観光事業にとっても追い風となっている。
- 現状:台湾三菱商事の社内旅行に銚子が選定され、現在、受入プログラムを検討している。
- ・令和5年度:これまでも取組がメディアで取り上げられることは多かったが、今年度は、NHKの国際放送NHK-WORLDでの放送(2月)が決定しており、その反響に期待している。
- 現状:放送後の反響を実感している。WEB上での定期配信により認知度を高めている。今後は年末年始の集客に期待している。

令和5年度方策:

- ・行政や観光協会、企業と連携し、以前より銚子市と関係の深い台湾を中心としたインバウンドの誘客に向けたPRを行なっていく。
- ・インバウンドに特化した旅行会社やOTAを通じて販売するツアー商品を増やしていく。(連携先:WAmazing株式会社、株式会社羅針盤 等)
- ・インバウンドに対応した通訳兼観光ガイドについて、業務体制をより明確にするとともに、受入のスキルアップを図る。
- 現在の改善状況:インバウンド客を市内で目にする機会が明らかに増え、銚子電鉄(協議会構成員)の犬吠駅売店で翻訳機の導入を検討している。

今後、急増が見込まれ、取りこぼしのないよう受入体制を点検する。□

事業実施主体名: 北総里山文化推進協議会

令和6年5月29日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
千葉県 神崎町	令和3年	農泊推進対策	高度化促進事業

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

中国からの集客を中心にしていたが、新型コロナウイルスによる規制により、インバウンドの受入環境は厳しく、集客に結び付かなかったと考えられる。活動体制についてはしっかり構築されていると見受けられることから、引き続き情報発信や各種取組を確実に実施されたい。インバウンドの本格的な回復に合わせて取組みを継続することで、実績に繋げていただきたい。

2. 低調と評価された要因

・コロナの収束時期が予測していたよりも遅れたため。
・ターゲットとしている中国においては、ビザ発給規制ほか細かな水際措置がとられ、コロナ前の状況になかった。
・オンラインでのPR動画や中国SNSでの情報発信をしているが来日誘導まで至らなかった。

3. 目標達成に向けた方策

・神崎町や隣の香取市と連携し、インバウンド向けのPRを行う。
・成田空港の地域共生部と連携し、ツアー造成やPRに取り組む。
・「インバウンド誘客レベルアップ研修会」を運営した株式会社農協観光と連携し、新たな誘客チャネルを開拓する。
・中国人向けインバウンドの関係機関(国内と中国内旅行社)へのPRを行う。
・耕作放棄地再生活動として毎週ボランティアが集まっており、この活動からもインバウンド向けの体験プログラムを地域住民を巻き込み企画していく。
・地域の受け入れ体制の更なる強化を図る。

4. 改善状況

・目標達成に向けた方策のほか、隣接する香取市(佐原地区など)と連携し、中国人インフルエンサーを招聘したツアーを実施した。ツアーの様子を中国向けSNSで配信し、成田国際空港から近い魅力的な地域として高い評価を得ることができた。こうした取組もあって、OTAによる予約が定期的に入り、農泊事業が安定してきている。
・神崎町の観光コンテンツが不足していることから、地域住民の協力を得て、耕作放棄地を活用した農業体験圃場やワイナリーや乗馬施設の整備に着手しており、インバウンド誘客につなげたい。